

科 目 名		学 年	
環境と社会: Environment and Society		1PDK	
教 員 名		高橋正和: TAKAHASHI Masakazu 山下 祐志: YAMASHITA Yuji 岩元 修一: IWAMOTO Shuichi	
単 位	授 業 時 間	科 目 区 分	授 業 形 態
2	100分×15回	必修	講義・後期
授 業 概 要	本講義は、人間性豊かな技術者をめざすために、「地球的視点から物事を考える能力を育成すること」を目標として開設されたものである。いわゆる「～学」と呼ばれる学問体系に属するものではなく、幅広い多様な視点から授業を展開したい。(山下)あわせて生命、環境、文明を統合的にとらえられるようにする。(高橋)環境とエネルギー、コストの関係について考える。(岩元)		
到 達 目 標		評 価 方 法	配 分
安藤昌益の自然観や社会観、人間観について、基本的な枠組みが理解できる。地球的視点から、自分なりの幸福感や人生観、世界観を身につけ、これを説明できる。		レポートによって評価する。	30%
環境論から、日本文明の独自性を理解できる。		レポートによって評価する。	30%
環境とエネルギー、コストの関係を理解できる。		試験で評価する。	40%
学 習 ・ 教 育 目 標		(F)③④	JABEE基準1(2) (a)
授 業 計 画	回	項 目	内 容
	第1	安藤昌益の思想	シラバスの説明を行い、何故に安藤昌益を採用したのかについて解説する。
	第2	同上	安藤昌益の自然観、社会観、人間観に関するプリントを輪読し、私たちの生き方について考える。
	第3	同上	同上
	第4	同上	同上
	第5	同上	同上
	第6	環境の比較文明	植物文明と動物文明
	第7	人間圏の成立	地球史からみた環境文明論
	第8	生命と環境の哲学	生命を環境から考察する。
	第9	山岳宗教	仏教と神道の習合思想
	第10	日本文明論	日本文明の特徴
	第11	エネルギーとコスト(1)	日本の「エネルギー」の現状
	第12	エネルギーとコスト(2)	戦後日本の「エネルギー」政策史
	第13	エネルギーとコスト(3)	「エネルギー」のコスト
	第14	エネルギーとコスト(4)	「エネルギー」施設の耐用年数
第15	エネルギーとコスト(5)	これからの日本の「エネルギー」	
自学自習の内容		毎回、次回の講義用プリントを配布するので、予習を兼ねてプリントに目を通しておくこと。	
関連科目		本科の社会科関連科目	
教科書		参考資料として、毎回プリントを配布する。	
参考書		『安藤昌益全集』(農文協)	
授業評価・理解度		最終回に授業評価アンケートを行う。	
副担当教員			
備考			